

# 電通本社ビル

## 建物諸元(2016年12月現在)

所在	港区東新橋一丁目
主用途	事務所
敷地面積	17,244m <sup>2</sup>
延床面積	231,701m <sup>2</sup>
階数	地上48階地下5階
竣工年月	2002年11月
事業者・所有者	株式会社 電通
代表設計会社	株式会社 大林組
デザインパートナー	アトリエ・ジャン・ヌーベル、ジャーディ・パートナー シップ
管理会社	株式会社 電通ワークス
URL	<a href="http://www.dentsu.co.jp/">http://www.dentsu.co.jp/</a>
テナント数	物販・飲食店舗 56 店舗

## 主な評価項目

### I 一般管理事項

- ・店舗テナントの定期会議を通じて、省エネや無駄な設備運転の削減へ向けた啓発活動を実施
- ・年2回の社員限定の設備見学コース「エコツアー」を実施

### II 建物、設備性能に関する事項

- ・商業施設や屋外照明のLED化

### III 運用に関する事項

- ・ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)の活用
- ・日常点検や故障履歴からの省エネへ向けた長中期修繕計画の立案

## 事業所の概要

電通本社ビルは、基本コンセプトに「長寿命」「環境共生」「省エネルギー」をかがね、企業イメージを象徴するデザインとエンジニアリングを融合させ、環境性能向上と環境負荷削減の両立を図り、2002年に誕生しました。

### 「セラミックプリントガラス」と「エアフローウィンドウシステム」 で環境性能向上と環境負荷削減の両立を図る

南面の大きなクリスタルファザードにセラミックプリントガラスを採用し、眺望を確保するとともに、雲に消えゆく外観により、周囲環境へのローインパクトに配慮しています。またセラミックプリントガラスにエアフローウィンドウシステムを組み合わせ、ペリメータの温熱環境の改善を図るとともに、日射負荷を低減することで省エネルギーを実現しています。このように当時の最新技術やノウハウが惜しみなく注ぎ込まれ、建設・設備の両面にわたるそれらの取り組みは主なものだけで35項目に及び、省エネルギー効果・CO<sub>2</sub>削減効果はともに竣工時の同規模の従来型建築物に比べ、およそ30%の向上を実現しています。

### 「設備が安定期に入ってからからの取り組み」

設備が安定期に入ってからからの取り組みとしては、空調制御に不感帯の導入、混合ロス削減のために可変風量方式(VAV)のプログラム改良、熱源設備において冷水熱交換器に保温ジャケットの装着、駐車場排気ファンの低風量インバーターと自動制御導入、照明機器のLED化など、数々の投資対策と運用改善による省エネルギー施策を約40項目実施しています。これらの取り組みにより、CO<sub>2</sub>排出量は基準年度から「28%減」を実現しています。

## 事業所外観写真



### 「設備の更新時期を迎え」

2016年は、竣工14年を迎え今後様々な設備の更新時期を迎えます。当時では最新の省エネルギー設備でしたが、技術革新も著しいため更なる省エネルギー化の実現に向け「中期営繕計画」を策定。今後も社は、「環境戦略会議」を中心に温暖化対策への取り組みを推進して参ります。